

R4年度 2学期末 学校評価(教職員)アンケート まとめ

R5.2 職員会議資料

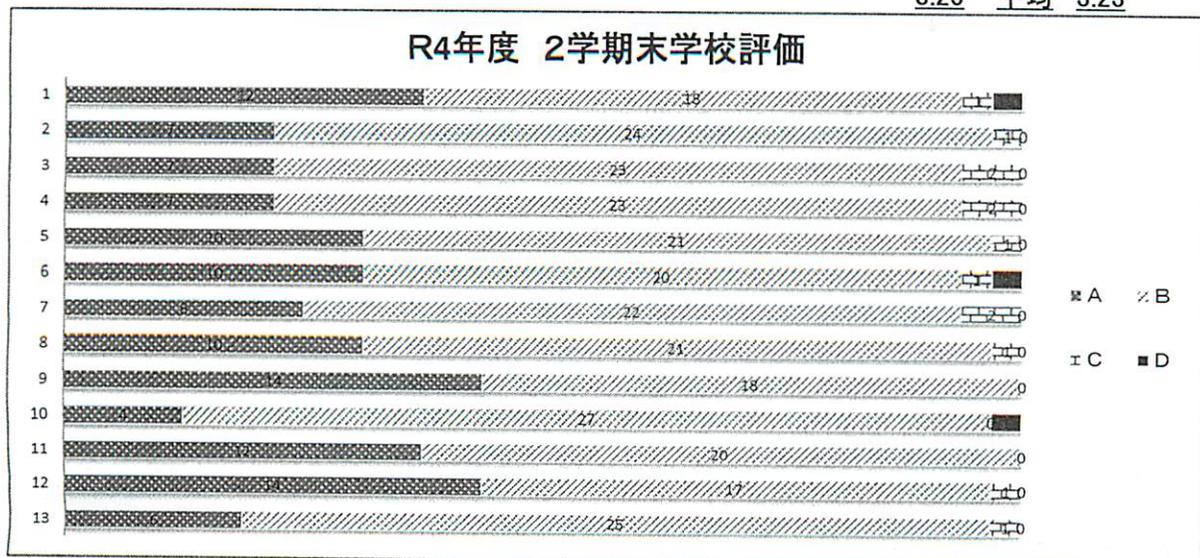
- A 「満足できる」「そう思う」
 B 「だいたい満足できる」「ややそう思う」
 C 「少し問題がある」「ややそう思わない」
 D 「問題がある」「そう思わない」

R4.12集計

No.	内容	A	B	C	D	合計	平均と順位		R4.前期		
							平均	順位	平均	順位	
1	学校経営方針が理解され、それを実現するための努力がされていると思いますか。	12	18	1	1	32	105	3.28	4	3.33	2
2	子どもたちは明るく楽しい学校生活を送っていると思いますか。	7	24	1	0	32	102	3.19	8	3.19	8
3	確かな学力を育む学習指導が確実に取り組まれていると思いますか。 (「進んで学習する子ども」)	7	23	2	0	32	101	3.16	10	3.06	13
4	道徳の授業や具体的な実践活動を通して、心を育てる教育が進められていると思いますか。 (「思い遣りのある子ども」)	7	23	2	0	32	101	3.16	10	3.08	12
5	健康づくり・体力づくりの取組が確実に進められていると思いますか。 (「健康でたくましい子ども」)	10	21	1	0	32	105	3.28	4	3.14	9
6	学年・学級での活動、児童会活動等を通して、社会性や自主性を高める取組が進められていると思いますか。	10	20	1	1	32	103	3.22	7	3.22	6
7	ねらいや意義を理解した適切な生徒指導が行われていると思いますか。	8	22	2	0	32	102	3.19	8	3.22	6
8	交通安全教育、防犯・防災教育等、子どもの安全確保に配慮した取組が進められていると思いますか。	10	21	1	0	32	105	3.28	4	3.33	2
9	環境整備や施設設備の充実に向けて取組が進められていると思いますか。	14	18	0	0	32	110	3.44	1	3.33	2
10	「地域人材活用等、地域との連携を生かした特色ある学校づくり」に向けた取組が進められていると思いますか。	4	27	0	1	32	98	3.06	13	3.14	9
11	「開かれた学校づくり」に向けた取組が進められていると思いますか。	12	20	0	0	32	108	3.38	3	3.11	11
12	教職員としての責務(服務・勤務、研修)を果たし、協調した取組が進められていると思いますか。	14	17	1	0	32	109	3.41	2	3.47	1
13	P T A 活動の組織や事業内容は適切であると思いますか。	6	25	1	0	32	101	3.16	10	3.33	2

(注) Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点に換算して、集計

3.25 平均 3.23



【教職員アンケートの考察】

【計算方法】

- A「満足できる」「そう思う」→4ポイント
 - B「だいたい満足できる」「ややそう思う」→3ポイント
 - C「少し問題がある」「ややそう思わない」→2ポイント
 - D「問題がある」「そう思わない」→1ポイント
- として合計し平均ポイントを出す。

【全体の特徴】

- 「項目12:教職員としての責務(サービス・勤務,研修)を果たし,協調した取組が進められていると思いますか」の項目については前期,後期ともに評価が高いことから,全教職員が学校教育目標や重点目標の具現化に向けて共通理解のもと,学校・学年の教育活動を計画し,協働していることがうかがえる。
- 評価が高い項目は「項目1:学校経営方針の実現」「項目8:交通安全教育,防犯・防災教育の取組」「項目9:環境整備や施設設備の充実に向けての取組」である。それに対して低い項目は,「項目3:確かな学力を育む学習指導の取組」「項目4:心を育てる教育」「項目7:ねらいを理解した適切な生徒指導の推進」「項目10:地域人材活用等,特色ある学校づくりに向けた取組」である。前者は本校の特徴としてさらに活かし,後者は本校の課題として改善が求められる。

【項目ごとの考察】

- 「項目1:学校経営方針」「項目12:教職員としての責務」について

項目12「教職員としての責務」については前期,後期ともに職員の評価が高かった。個々の教職員が職責を自覚し,各学年において協調した取り組みが進められた成果といえる。ただし,項目1「学校経営方針の理解と実現に向けて」については前期にはなかったD評価が見られた。学校全体としての情報共有と取り組みにおいて,課題が見られる結果となった。いくつかの項目について共通していえることだが,職員会議や終礼において,正確な情報共有と学校組織全体としての取り組みをさらに進めていかななくてはならない。

- 「項目2:子どもたちの楽しい学校生活」について

概ね肯定的な評価が多かった。しかし,前期には見られなかったC評価を得ている。

勉強がわかって「楽しい」,友達と毎日仲良く遊んだり,おしゃべりできて「楽しい」,体験学習や行事が「楽しい」,安心して自分の考えを述べることができ,友達に受け入れてもらえる居心地の良い学級で「楽しい」等,「楽しい学校生活」が送れる「一人一人の笑顔が輝く学校に」なるために,児童一人一人の心身の健康に配慮し,よりよい成長を手助けしていきたい。

児童の心のケアとして,SC(スクールカウンセラー)だよりを発行したり,学校訪問日の日程を全家庭に周知した。1・2学期には,中学校入学を控えた6年生全児童を対象にカウンセリングを実施した。また,スクールカウンセラーが必要に応じて児童の授業参観をしたり,保護者との面談を行ったりした。特別な配慮が必要な児童について,保護者や教職員がアドバイスをしていただいた。今後も保護者と連携をとりながら児童,保護者に寄り添った支援をしていく中で,子どもたちが明るく楽しい学校生活を送れるよう取り組んでいきたい。

○「項目3:確かな学力を育む学習指導」について

前期、後期とも順位が下位であり、本校にとって大きな課題である。確かな学力を育むためには、学校の授業と家庭学習の両輪で取り組むことが学力向上に繋がっていく。そのために学校では、教職員個々の授業力向上に努めるとともに学習規律の徹底をはかっていく。今後は、学習意欲の向上とともに、自ら課題に取り組み、学ぶ楽しさを感じる態度の育成を図っていきたい。また、生活指導とも関わるが学習に向かう姿勢、学習規律をどの学級でも浸透させていく。継続した学習の積み重ねのために、朝学習・朝読書を行うようにしていく。学力向上には、家庭との連携が不可欠であるため、引き続き学校での取組を周知しながら、家庭の理解と協力を得られるように努めていきたい。

○「項目4:道徳の授業・心を育てる教育」について

人として生きていく人間性に繋がる心の教育も非常に重要である。「道徳」の授業を充実させるために、教職員のスキルアップを学校全体で図っていききたい。また、「あいさつ」「場に応じた言葉遣い」「思い遣る心」について学校生活全体の中で全職員で指導したり、体験学習等を通じて、豊かな心の育成に努めたい。

○「項目5:健康づくり・体力づくり」について

1学期からコロナ感染症対策としてマスクの着用・手指消毒、校舎内の消毒作業、教室の換気等の取組を徹底し、教職員一人一人が感染症防止に対して取り組んできた。また、健康チェックや教室入り口での手指消毒・手洗い等、感染防止の意識向上にも努めてきた。児童会を中心にドッジボール大会、体育委員会を中心に縄跳びチャレンジ(実施はできず)を企画し、健康づくり・体力づくりの取組が進められた。

○「項目6:社会性や自主性を高める取組」について

昨年から引き続き、コロナ感染症防止のため、児童会行事や委員会集会などが実施できなかった。児童会に限らず、学級での様々な活動にも制限があった。そんな中でも、たてわり学級出発式やフェスタ大里が実施でき、準備や運営を通して、特に上級生の社会性や自主性を伸ばすことができた。それぞれの学級・学年において、児童が自主的に考え、計画に沿って実践し、振り返る取組を行い、自治の力をつけさせたい。

○「項目7:ねらいや意義を理解した適切な生徒指導」について

学校評価の項目の中で、毎年、本校の課題となっている項目である。職員会議の中で月の生活目標を確認し、各学級で取り組むこと、また、学期に1度の生徒指導委員会を設けて、はじめを含めた学級での様子についての情報交換を行っている。また、あいさつの呼びかけや児童会や生活委員会の児童による「あいさつ運動」を行うことにより、全児童のよりよい生活習慣の意識づけをはかっている。また、家庭と連携し「生活かがやき運動」を学期ごと計3回行い、その時期に合わせた取組項目も組み込むようにしてきた。

この項目について記述の意見で見られることが、「全校の共通理解に基づいた指導」である。生活指導に関わる「きまり」「ルールやマナー」については、全職員で丁寧に確認し合い、指導内容は同一歩調で全学級・全児童に指導していくことが大切になる。毎月の職員会議や終礼の中に生徒指導の情報交換を盛り込んだり、生徒指導記録を閲覧できるようにし、情報共有してきた。生活目標については、必ず意思統一の上で、学年に応じた指導をしていくようにしたい。

○「項目8:子どもの安全確保に配慮した取組」について

通年にわたり、保護者の旗振りの協力、地域ボランティアによる安全パトロールをしていただいているお陰で、毎日児童が安全に登下校できていて大変有り難い。そのため、学校で教職員が安心して朝、教室で児童が登校してくるのを迎えられている。防犯・防災教育については、コロナ感染症防止のため、避難訓練が計画通りにできない状況であった。しかし、城南中校区で統一した小中連携引き渡し訓練を実施したり、火災を想定した避難訓練を実施することができた。また、教室で学級担任が様々な状況によって避難の仕方が違うことについて指導する機会も計画的に行ってきた。次年度も計画に沿って、子どもの安全確保に対しての取組をすすめていきたい。

○「項目9:環境整備や施設設備の充実に向けての取組」について

毎月、職員の安全点検を実施し、校内での危険箇所や修繕する箇所については市の施設営繕課に早急に連絡を取り、環境を整える体制をとってきた。今後も引き続き、「物を大切に作る心」について児童に指導していきたい。

○「項目10:特色ある学校づくり」「項目11:開かれた学校づくり」について

本来ならスクールプランにも掲げられているとおり、保護者や地域の協力を得ながら「特色ある学校づくり」「開かれた学校づくり」を行っていくべきところである。しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため、様々な活動を実施することができなかった。「地区探検での講師依頼」は実現できたが、「地域の方を招いての読み聞かせ」「ミシンボランティア」「生活科や総合学習におけるゲストティーチャー」などが実施できず、大変残念であった。また、今年度、保護者に学校の様子を参観していただいたのは、6月・11月・2月の授業参観だった。学校だより・学年だよりの発行やホームページの掲載等で保護者に情報発信してきたが、今後、さらに学校の取り組みを知っていただく方策を考えていきたい。

また、来年度より実施される学校運営協議会(コミュニティ・スクール)に伴い、これまで以上に地域の力をお借りしながら、学校と地域が協働しながら取り組んでいきたい。

○「項目12:PTA活動の組織や事業内容」について

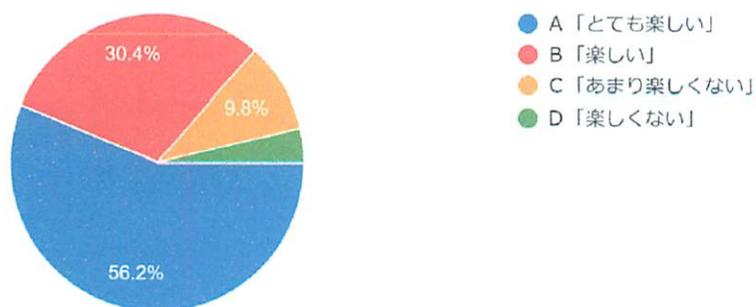
コロナ感染症防止のため、PTA活動については今年度も計画通りに実施できなかった。PTA活動の内容精選と充実について、執行部と考えていきたい。

令和4年度学校評価(児童アンケート)

	A「とても楽しい」	B「楽しい」	C「あまり楽しくない」	D「楽しくない」
1. がっこうはたのしいですか	259	140	45	17

1. がっこうはたのしいですか

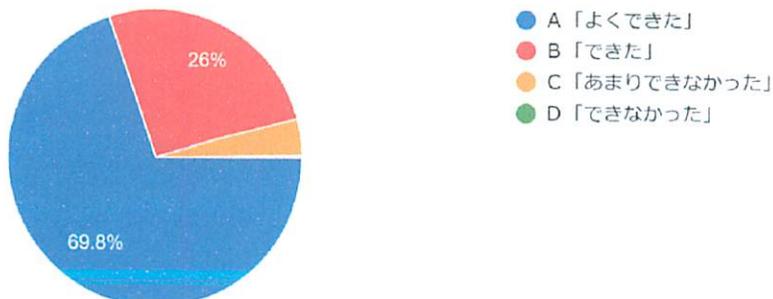
461件の回答



	A「よくできた」	B「できた」	C「あまりできなかった」	D「できなかった」
2. 友だちと仲よくできましたか	322	120	18	0

2. 友だちとなかよくできましたか

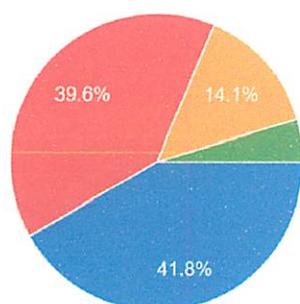
461件の回答



	A「よくできた」	B「できた」	C「あまりできなかった」	D「できなかった」
3. 忘れ物をなくすことができましたか	193	183	65	21

3. 忘れ物をなくすことができましたか

462件の回答

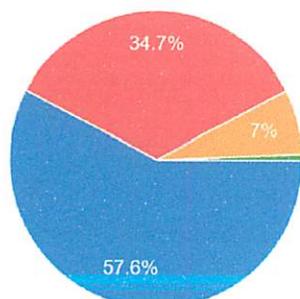


- A「よくできた」
- B「できた」
- C「あまりできなかった」
- D「できなかった」

	A「よくできた」	B「できた」	C「あまりできなかった」	D「できなかった」
4. 学校の勉強にしっかり取り組みましたか	264	159	32	3

4. 学校の勉強にしっかり取り組みましたか

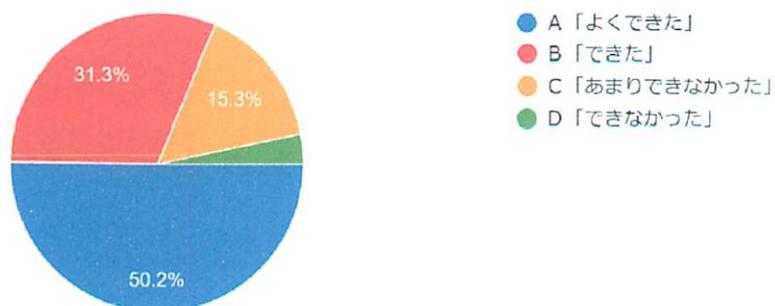
458件の回答



- A「よくできた」
- B「できた」
- C「あまりできなかった」
- D「できなかった」

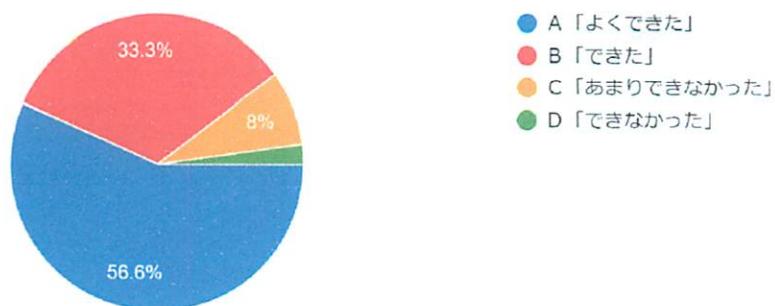
	A「よくできた」	B「できた」	C「あまりできなかった」	D「できなかった」
5. 家での勉強にしっかり取り組みましたか	233	145	71	15

5. 家での勉強にしっかり取り組みましたか
464件の回答



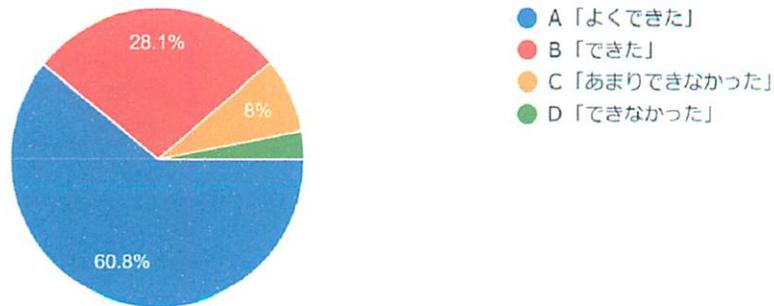
	A「よくできた」	B「できた」	C「あまりできなかった」	D「できなかった」
6. 学校の決まりが守れましたか	262	154	37	10

6. 学校のきまりが守れましたか
463件の回答



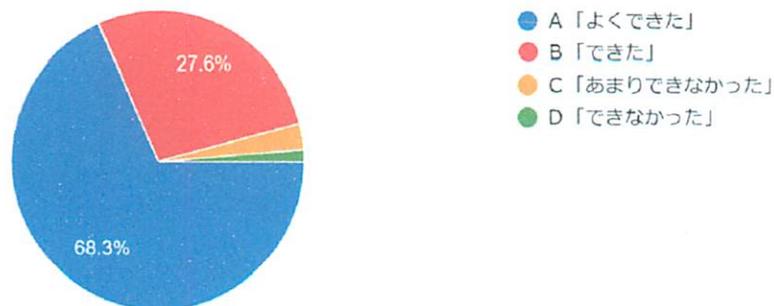
	A「よくできた」	B「できた」	C「あまりできなかった」	D「できなかった」
7. あいさつがしっかりできましたか	281	130	37	14

7. あいさつがしっかりできましたか
462件の回答



	A「よくできた」	B「できた」	C「あまりできなかった」	D「できなかった」
8. そうじがしっかりできましたか	316	128	13	6

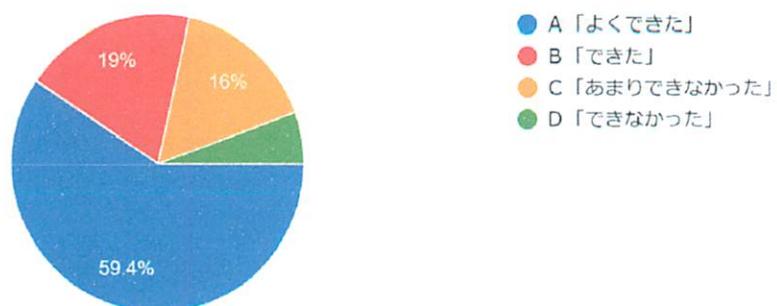
8. そうじがしっかりできましたか
463件の回答



	A「よくできた」	B「できた」	C「あまりできなかった」	D「できなかった」
9. 休み時間に外あそびができましたか	275	88	74	26

9. 休み時間に外あそびができましたか

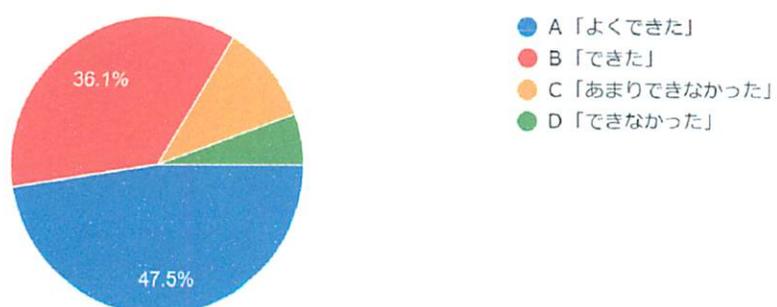
463 件の回答



	A「よくできた」	B「できた」	C「あまりできなかった」	D「できなかった」
10. こまったとき先生に相談することができましたか	220	167	50	26

10. こまったとき先生に相談することができましたか

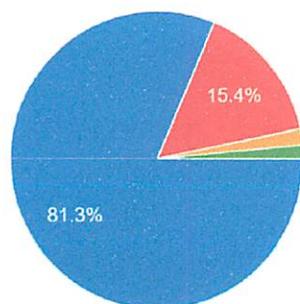
463 件の回答



	A「よくできた」	B「できた」	C「あまりできなかった」	D「できなかった」
1 1. 安全に登校や下校ができましたか	375	71	8	7

1 1. 安全に登校や下校ができましたか

461件の回答

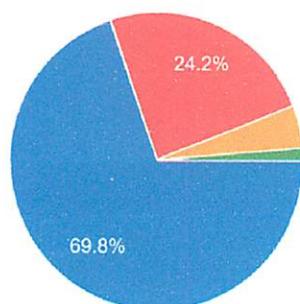


- A「よくできた」
- B「できた」
- C「あまりできなかった」
- D「できなかった」

	A「よくできた」	B「できた」	C「あまりできなかった」	D「できなかった」
1 2. 手洗い、うがいや歯みがきなどしっかりできましたか	323	112	22	6

1 2. 手洗い、うがいや歯みがきなどがしっかりできましたか

463件の回答



- A「よくできた」
- B「できた」
- C「あまりできなかった」
- D「できなかった」

児童アンケート集計結果

【全体的な考察】

それぞれの項目において、1つの項目（質問9：「休み時間に外遊びができましたか」）を除いて全ての項目でA評価（「よくあてはまる」）B評価（「あてはまる」）を合わせた割合が80%以上だったことから児童の学校満足度やきまりをまもることについての意識は、概ね高いと言える。しかし、児童のA・B評価が高い項目でも、実際の学校生活での児童の様子を見ると、評価結果と相応していない部分もある。また、C評価（「あまりできなかった」）D評価（「できなかった」）の児童もいることは、教職員全体が共有して、今後の指導に生かしていかなければならない。

○「学校は楽しいか」

86.6%の児童がA・B評価をしている。学校生活において児童が楽しいと感じられるのは自分の学級が、自分にとって居心地の良い学級であるかどうかが大切であろう。学校生活は、児童一人で過ごしているわけではなく、教師とのかかわり、友達との関わりがあり、その中で児童は成長していく。学校経営方針の最上に掲げられている『一人一人の笑顔が輝く学校』にあるように、児童にとって日々の生活が様々な喜びにあふれ、笑顔が輝く学校であることが、「学校は楽しい」に繋がっていくと考えられる。スクールプランにある指導重点を今一度、一人一人の教職員が考え、来年度に向けて一つのチームとして取り組んでいきたい。

○「友だちと仲よくできたか」

A・B評価が95.8%を越えている。大里小ではこの調査とは別にいじめアンケートも毎学期1回、年間3回行っている。学校生活の中で、友達関係の中でのトラブルが生じるとすぐに担任が対応していることから、児童も安心して生活できていると考える。いじめアンケートの確認については、当該児童に丁寧に聞き取り、場合に応じて担任だけでなく学年、また管理職も入り共通理解をした上で、対応を図るようにしてきた。引き続き来年度も、「いじめ」の事案については積極的に調査や未然防止、予防的教育に力を入れ、「友だちと仲よくできた」と児童自身が感じられる大里小であり続けたい。

○「忘れ物をなくすことはできたか」

昨年度に引き続き、約20%の児童がC・D評価であった。本校の児童にとっての大きな課題である。同じ児童が忘れ物をしてしまうことが多く、忘れ物に罪悪感がなく、継続してしまっているところが問題である。この問題は学校だけで解決するのではなく、家庭との連携が重要になってくる。忘れ物をすることで学習が妨げられ、無駄な時間を作ってしまうことを本人にはしっかり意識させ、また家庭の協力を得ながら問題の解決にあたっていきたい。

○「学習について」

「学校の勉強」と「家庭での勉強」の取り組み方を比較してみると、「よくできた」「できた」の割合が、「学校の勉強」が92.3%、「家庭での勉強」が81.5%と10ポイントの差が見られる。6年生が実施した全国学力調査の質問紙調査からも本校の家庭学習時間の取り組みについて課題が見られた。この傾向は昨年度にも見られ、本年度は特に家庭学習に取り組ませることに力を注いできた。具体的には「家庭学習ステップカード」や「学校便り」を用いて、保護者に家庭学習の重要性ややり方などを啓発し、「家庭学習ノート」を使っての家庭学習を推進してきている。まだまだ取り組みは緒に就いたばかりで成果が反映されてくるには時間を要するかもしれないが、「宿題があるからやる」「言われるからやる」のではなく、なぜ勉強する必要があるのかという目的や追求することの楽しさを常に意識し、学習に取り組ませていきたい。

○「学校のきまりを守ることができたか」

子供たちの自己評価はA・B評価の数値が合わせて89.9%と高い。しかし、実際は、休み時間の終わりのチャイムが鳴ると校庭からなかなか急いで戻ってこなかったり、廊下を走ったりする児童もいる。また、上履きをきちんと履かない児童や校庭にゴミを捨てる児童もいる。教師が指導しても、小さなルールを守れない状況が見られ本校の課題である。

「学校のきまり」を児童はどの程度意識しているだろうか。学年始めに「大里小学校のきまり」を先生から知らされるだけで、日常の意識がおろそかになってはいないだろうか。令和5年度においては「学校のきまり」について児童自身が一度見直し、必要な決まりについて考えさせることで、より、自分たちの考えた決まりとして意識させていく必要がある。そして、きまりがあるから守るのではなく、きまりを守ることが自分たちの生活をよりよいものにするという意識を児童に持たせていきたい。最終的にはきまりがなくても自分たちで考えて善悪を判断できる児童の育成を目指していきたい。

○「あいさつができたか」

A・B評価合わせて88.9%で高評価である。学校では、児童会本部、生活委員会が中心になり、あいさつ運動に取り組んでいる。期間を決めて玄関前に生活委員が立ち、登校してくる児童に積極的にあいさつを呼びかけていた。あいさつ運動の期間はあいさつができるが、それ以外はなかなか自らあいさつできる児童が多いとは言えない。また、登校の際に、旗振りの当番の保護者から、「あいさつをしても児童が返さない」というご意見もあった。

学級・学年によっては教室の入り口に「あいさつをして教室に入りましょう」と掲示がされ、学級ごとに力を入れている姿も見られる。こうした毎日の継続的な取り組みが、「あいさつは当たり前」という習慣づくりにつながっていくのであろう。あいさつすることで、より良い人間関係を築いていく基礎であることを意識させ、学校全体でこれからも進んであいさつできるよう指導していきたい。

○「しっかりそうじができたか」

A・B評価合わせた数値が95.9%と高く、そうじにはよく取り組んできたと考えている。特に今年は、児童会本部が中心になり「無言清掃」の取り組みに力を注いできた。毎日の掃除のはじめの時間には児童会が放送で「無言清掃」の意識付けを呼びかけ、掃除の終わりには「無言清掃」がしっかりできていた学級を放送で発表した。子供たちは放送を聴くことで、「無言清掃」を意識することはできてきている。引き続き、師弟同行で教職員も清掃に取り組み、無言清掃が当たり前になるように取り組ませていきたい。

○「休み時間の外あそび」

本校は外で遊ぶ児童の数が比較的多い。高学年でも男女が一緒になってドッジボールや鬼ごっこをする姿がよく見られる。また、教職員も積極的に児童と外遊びをして児童とのコミュニケーションをより深めている点は本校の特色でもある。しかし、学年が上がるにつれ、どうしても外で遊ぶことを敬遠しがちな児童もいる。本年度は全校の約20%の児童が、「あまりできなかった」「できなかった」としている点も気になるところである。また、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため、休み時間の開始時刻に時差をつけることで、玄関での密を防ぐようにしてきた。休み時間の後の手洗いにも気をつけさせながら、体育の学習と併せて体力向上のためにも外あそびを奨励していきたい。

○「先生への相談」

A・B評価「よくできた・できた」を合わせると83.6%、C・D評価「あまりできなかった・できなかった」が16.4%である。一見、多くの児童が相談できたようにも見えるが、16.4%の児童が相談できなかったことを重く受け止めるべきであろう。山梨県の指導重点の中にもあるが、SOSの出し方教育について学級活動等で重点的に取り組み、引き続き道徳の授業や学級活動等でSOS教育を推進して行く必要がある。教師は児童の様子を常に観察すること、児童が安心して教師に相談できるような信頼関係を築いていくことが大切である。そのためにも、学級経営の充実を図っていきたい。

○「安全な登下校ができたか」

児童の自己評価ではA・B評価「よくできた・できた」が96.7%と非常に高い。ただ、地域の方や保護者の方から「登校班がバラバラになっている」「突然道路に飛び出してきた」「遊びながら帰っている」といった心配の声も多数あった。子供たちの安全の認識と大人の認識との間に大きなズレがある。自分たちは大丈夫と思っていることが、実は危険な行為であるという認識が育っていないとも言える。

大里小は朝の登校時は集団登校、下校時は1～4年生は色別コース下校、5・6年生は児童複数下校をとっている。登校時には、大里小スクールガードの方々が、毎朝児童の安全を見守ってくださっていて、学校や保護者にとって、大変有り難いことである。また、下校時には、基本的に一人では下校しないように指導している。今年度も大きな事故やトラブルといったことはないが、ちょっとした不注意で大きな事故につながることを今後も常に児童に意識させ、安全に登下校できるよう引き続き指導していきたい。

○「手洗い・うがい・歯ブラシができたか」

手洗いやうがいに関しては、学級指導や学校のテレビ放送を通しての養護教諭による保健指導を通年で行ってきた。コロナ禍で手洗いやマスク着用がどれだけ重要かということ指導し続けてきた。また、家庭へも協力をお願いする中で、感染対策を続けてきた。ただ、飛沫による感染予防、流しの密を避けるといったことから、うがいや歯ブラシの指導は十分とは言えないが、今後も引き続き家庭にも協力をしていただけるよう保健だより等を通して保健指導をしていきたい。

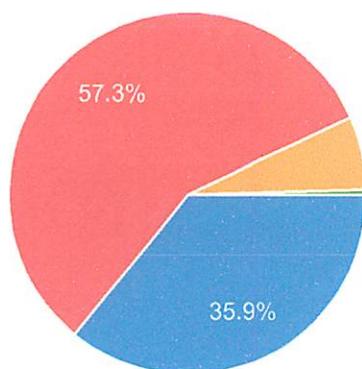
R4学校評価保護者アンケート

234 件の回答

分析を公開

1. 大里小学校の学校経営方針は、妥当であると思いますか

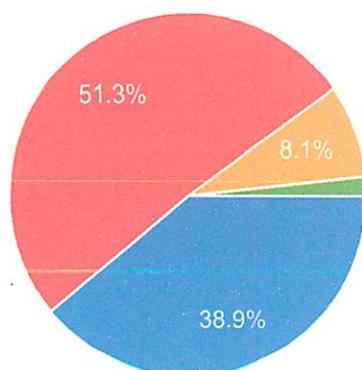
234 件の回答



- 【A】「十分にできていると思う」「そう思う」
- 【B】「おおむねできていると思う」「やや、そう思う」
- 【C】「やや問題がある」「やや、そうは思わない」
- 【D】「問題である」「そう思わない」

2. 子どもたちは、明るく楽しい学校生活を送っていると思いますか

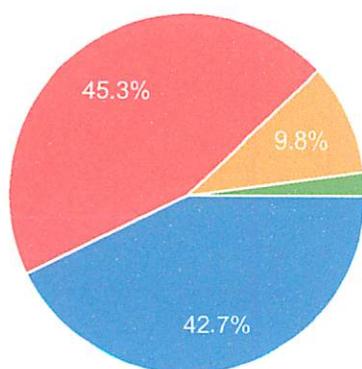
234 件の回答



- 【A】「十分にできていると思う」「そう思う」
- 【B】「おおむねできていると思う」「やや、そう思う」
- 【C】「やや問題がある」「やや、そうは思わない」
- 【D】「問題である」「そう思わない」

3. 教職員は、日常の教育活動に熱心に取り組んでいると思いますか

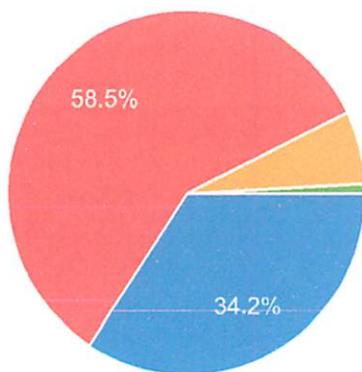
234 件の回答



- 【A】「十分にできていると思う」「そう思う」
- 【B】「おおむねできていると思う」「やや、そう思う」
- 【C】「やや問題がある」「やや、そうは思わない」
- 【D】「問題である」「そう思わない」

4. 教職員は、わかりやすい授業に努めていると思いますか

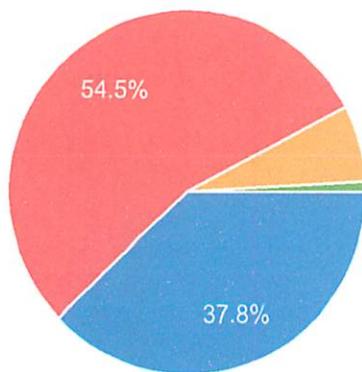
234 件の回答



- 【A】「十分にできていると思う」「そう思う」
- 【B】「おおむねできていると思う」「やや、そう思う」
- 【C】「やや問題がある」「やや、そうは思わない」
- 【D】「問題である」「そう思わない」

5. 教職員は、あいさつや思いやる心の育成など、道徳性を高める努力をしていると思いますか

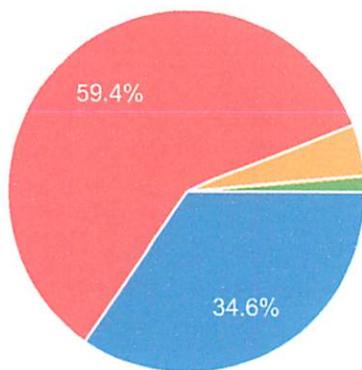
233 件の回答



- 【A】「十分にできていると思う」「そう思う」
- 【B】「おおむねできていると思う」「やや、そう思う」
- 【C】「やや問題がある」「やや、そうは思わない」
- 【D】「問題である」「そう思わない」

6. 教職員は、健康づくり・体力づくりに熱心に取り組んでいると思いますか

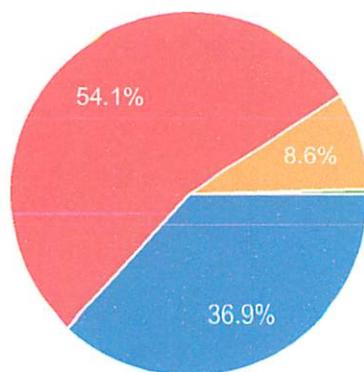
234 件の回答



- 【A】「十分にできていると思う」「そう思う」
- 【B】「おおむねできていると思う」「やや、そう思う」
- 【C】「やや問題がある」「やや、そうは思わない」
- 【D】「問題である」「そう思わない」

7. 教職員は、協力することや責任を果たすこと、進んで課題に取り組むことなどの社会性・自主性を育てる活動に取り組んでいると思いますか

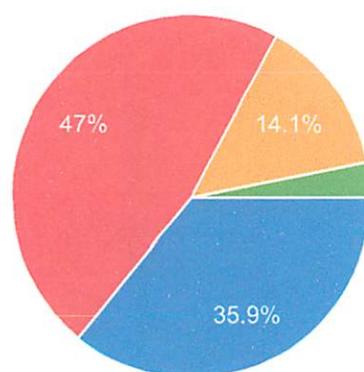
233 件の回答



- [A] 「十分にできていると思う」「そう思う」
- [B] 「おおむねできていると思う」「やや、そう思う」
- [C] 「やや問題がある」「やや、そうは思わない」
- [D] 「問題である」「そう思わない」

8. 教職員は、子どもたちの学校生活に目を配り、子どもたちの問題悩みなどに対して適切に対応していると思いますか

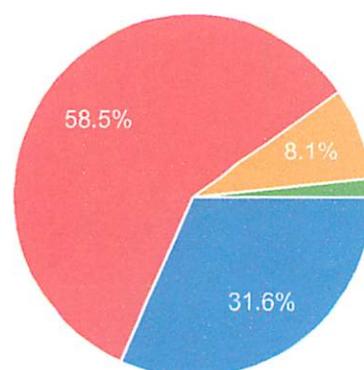
234 件の回答



- [A] 「十分にできていると思う」「そう思う」
- [B] 「おおむねできていると思う」「やや、そう思う」
- [C] 「やや問題がある」「やや、そうは思わない」
- [D] 「問題である」「そう思わない」

9. 教職員は、登下校時の交通安全教育や防災・防犯教育に取り組んでいると思いますか

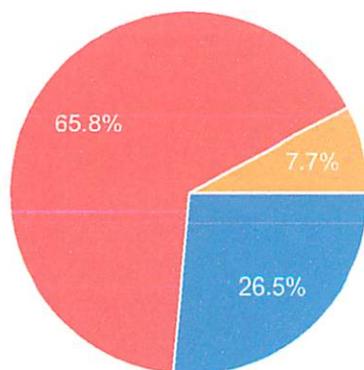
234 件の回答



- [A] 「十分にできていると思う」「そう思う」
- [B] 「おおむねできていると思う」「やや、そう思う」
- [C] 「やや問題がある」「やや、そうは思わない」
- [D] 「問題である」「そう思わない」

10. 学校は、環境整備や施設設備の改善のために、適切な取り組みをしていると思いますか

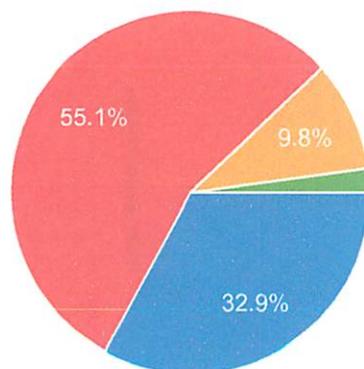
234 件の回答



- 【A】 「十分にできていると思う」「そう思う」
- 【B】 「おおむねできていると思う」「やや、そう思う」
- 【C】 「やや問題がある」「やや、そうは思わない」
- 【D】 「問題である」「そう思わない」

11. 学校は、必要な情報発信、学校開放など「開かれた学校づくり」に取り組んでいると思いますか

234 件の回答



- 【A】 「十分にできていると思う」「そう思う」
- 【B】 「おおむねできていると思う」「やや、そう思う」
- 【C】 「やや問題がある」「やや、そうは思わない」
- 【D】 「問題である」「そう思わない」

令和4年度 大里小保護者アンケート考察

【全体的に見て】

○回答率が45%で昨年度(70%)に比べて回答率の低下が目立った。昨年度よりGoogleフォームを使ったWEBのアンケートでの回答をお願いし、全家庭にURLとQRコードを載せた「アンケートのお願い」のお便りを配付し、家庭へ呼びかけたが全体的に回答数が昨年度より減ってしまっている。

○A(十分にできていると思う)・B(おおむねできていると思う)評価を合わせた割合を見ると質問11項目中、9項目が90%以上の肯定的な評価であった。それ以外の2項目についても、85%の高評価であった。

○コロナ禍で十分な活動ができない中での評価だったが、保護者も学校の教育活動に制限がある厳しい状況を理解していると考えられる。しかし、質問項目ごとのA評価の%を見ると、昨年度に比べてどの項目も低くなっていて、十分に満足しているとは言えない。

【質問項目ごとのA評価の%】

	1 学校経営方針	2 楽しい 学校生活	3 教育活動への 取組	4 分かりやすい 授業	5 挨拶・ 道徳性	6 健康/体力 づくり	7 社会性・自主 性育成	8 目配り・問 題対応	9 安全・防災 教育	10 環境整備 施設設備	11 特色ある学 校づくり	12 開かれた 学校づくり	13 PTA 活動
R4	36	39	43	34	38	35	37	36	32	27		33	
R3	36	41	44	41	43	40	41	32	31	30		35	
R2	52	58	57	54	55	50	53	52	50	48		48	
H31	50	54	56	56	53	46	49	44	47	45	39	48	46

【項目ごとに見て】

○項目1(「学校経営方針の理解」)

C・Dの否定的回答は少なかった。今後も保護者に学校ビジョン(スクールプラン)を周知していく必要がある。そのためには職員が常に経営方針を意識し、学校教育を推進すると同時に、PTA総会資料や学年通信等を通して経営方針に基づいた施策をしていることを伝えていきたい。

○項目2(「楽しい学校生活を送っているか」)

肯定的なA・B評価の合計が90%となっていることから、おおむねよい状況であると考えられるが、C・Dが10%いることは、今後の課題である。今後は学校全体で「安心できる」「居場所がある」集団づくりを進めると同時に、児童一人一人が、「わかるようになった」「できるようになった」と自分の成長を常に実感できる学校でなくてはならない。そのためにも「山梨スタンダード」「甲府スタイル」をもとにした授業改善を心がけると同時に、児童一人一人が居心地の良い学級であるように、学級集団作りに力を入れていきたい。様々な場面で児童を観察し、児童の心をしっかり受け止める中で、児童理解に努めていきたい。そして、教職員も児童と「楽しい」と共に喜び合える体験的活動や学習活動を仕組んでいくことが必要だと考える。

○項目3（「日常の教育活動に対する教職員の取組姿勢」）

A・B評価が合わせて88%と高評価であるが、逆にC・D評価も10%あることに目をとめたい。この項目は日々の児童への支援や指導、保護者対応などの積み重ねの中で評価される項目であるが、ここ数年の感染症対策から、授業参観や懇談会の機会も極端に減り、教職員と保護者が会って話をする機会も少なかったことが原因として考えられる。顔を合わせ、ゆっくりと子供や学級のことについて話すことができず、教職員と保護者の間が遠く感じてしまったのかもしれない。今後は、一人一人の保護者が、「自分の子どもが大切にされている、よく見てもらえている」ということを実感していただけるよう丁寧な支援や、指導、家庭への連絡をさらに積み上げていきたい。

○項目4（「わかりやすい授業」）

本校では「甲府スタイル」「やまなしスタンダード」を視点に置いた授業実践に取り組んでいる。ただ学習内容を教えるのではなく、児童に学習の見通しを持たせ、対話的な学習を通し、自分の考えを深め、それを振り返ることで確実な定着を狙っている。コロナ禍で、友だちとの話し合いもままならない状況だったが、今後も①教科横断的な教育課程の編成②「主体的・対話的な授業」を意識した授業改善に取り組んでいきたい。また、昨年度途中より一人一台端末が整備されている。今年度は校内研究でも端末を活用した効果的な授業改善に取り組んできたが、端末を利用した「個別最適な学び」が進められるように取り組むことが大切である。さらに、来年度も個別学習として保護者の理解を得た中で「取り出し」の学習を行い、児童の学習進度に合わせた学習指導を引き続き行うようにしていく。

○項目5（「あいさつ、思いやる心、道徳教育」）

肯定的評価が多かったが、旗振り反省ノートなど保護者の意見からは「登下校中のあいさつが少ない」という意見も聞かれる。あいさつが、良好な人間関係を構築していくための基礎であることや相手を尊敬することの大切さということを常に意識し、今後も指導していきたい。城南中学校区小中連携協議会でもあいさつについて課題として提起した中で、これからの具体的な取組を考えていく必要がある。また、学校便りや学年便り等で家庭と連携した取組も考えていきたい。

道徳教育については、道徳の授業だけでなく学校生活全体を見通す中で、道徳的価値、道徳的判断力、道徳的実践力の育成を今後も図っていきたい。そのためには、年間学習計画をもとに価値項目を満遍なくもれのないように日々の授業を行っていく必要がある。また、道徳推進教師を中心とした授業改善の提案など教職員の力量を上げていくことも重要となってくる。

○項目6（「健康づくり、体力づくり」）

今年度もコロナ感染症予防対策のため体育の授業内容に制限が設けられた。ただ、昨年度できなかったことも少しずつできるようになった。昨年度はできなかった水泳の授業は、プール内の人数を減らすことから学級単位で実施をしてきた。そのため実施回数は例年並みとはいかなかったが、子供たちの楽しみにしていた水泳ができたことはよかった。その他集団で組み合っ行う活動は避け、なるべく個人で行う活動とし、特定の少人数（2～3人程度）で活動を実施する際は十分な距離を空けて行っていた。児童同士が接触しないよう進めてきたため、運動会の取組みも含め十分な活動ができなかったが、本校は外で遊ぶことが好き

な児童が多く、休み時間に校庭で元気に遊ぶ姿が見られた。また、休み時間を利用して全校で「ドッチボール大会」などにも取り組み、児童の体力向上への意欲を高めてきた。

スポーツテストの結果から山梨県の児童の体力低下が言われてきているが、コロナ禍においても体を動かすことの奨励は、生涯学習の観点からも重要なことである。子ども時代には、様々な体づくり運動に取り組ませることがいいとされている。学校でもそれを踏まえ、体育の授業などバラエティにとんだ内容を工夫していきたいが、家庭にも児童に様々な運動に挑戦する機会を設けていただけよう啓発していきたい。

○項目 7 (「責任を果たす社会性、課題に取り組む自主性を育てる活動」)

A・B評価を合わせて91%での肯定的評価が高いものの、今後も組織的に取り組む必要性が感じられる。各学年「キャリアパスポート」を活用し、学校全体で系統性を持ってキャリア教育に取り組んでいる。小学1年生から高校3年生までを継続的に取り組んでいくこの「キャリアパスポート」を軸に、家庭との連携も図りながら、児童一人一人が自分の将来に向けて夢を持っていくこと大切さを伝えたり、社会性・自主性を育てたりすることを常に意識し、指導していきたい。そのために、日常の学校生活においても、児童自らが考え実行できるような活動を多く取り入れ、児童の自主性、社会性を育てていきたい。

○項目 8 (「子どもへの目配り、子どもたちの問題に対する適切な対処」)

昨年度、C・D合わせた評価が11%だったが、今年度は17%に増加している。教職員は、日々休む暇もなく一生懸命児童に関わっている。しかし、保護者の立場からみてC・Dにあてはまると感じている保護者がいることを真摯に受け止めていかなければならない。もう一度、「誠意はスピード」「子どもと保護者に寄り添った対応」という原点にもどって学校ができることを考えていきたい。そして、今後も、児童の問題行動の未然防止に努めるとともに、ささいな内容であっても、児童同士のトラブルについて早期発見、迅速かつ丁寧な対応を行い、家庭と連絡を取り合うようにしていく。また、場合によっては担任一人で安易に判断して指導せず、常に学年職員や管理職と相談した中でチームとして問題解決に取り組んでいきたい。

○項目 9 (「交通安全教育や防災・防犯教育」)

本校の児童は、広範囲の地域から登校しているため、保護者にとっても登下校時の通学路について心配をしている保護者も多い。低学年の下校では、毎日担当学年の職員がコースに分かれて下校指導を行っている。今後も大里地区地域安全推進委員会の方々を中心に地域の方々にもお願いする中で、児童の安全な登下校を図っていきたい。

通学路に関わっては、今年度もPTA会長を中心に通学路の点検を行い、危険箇所については市に要望するなどの活動をしてきた。また、PTAの教育振興部を中心に「こども110番」の見直しを年度末に行っている。今後も引き続き地域の方々の声を聞きながら危険箇所の洗い出し、また改善するための要望を出していきたい。

○項目10（「学校の環境整備や施設設備の改善」）

月1回の安全点検を担当箇所を決めて全職員が行っている。校舎内や校庭で危険箇所や修繕が必要な場所があった場合は、気がついたらすぐに管理職に連絡し、修繕等対応している。今後も児童が安全に学校生活を送っていけるよう、常に安全面には気を配り、環境整備に取り組んでいきたい。それと同時に、児童に対しては、公共施設の使い方や物の大切さについて引き続き指導していきたい。

○項目11（「特色ある学校づくり」）

昨年度同様、コロナ禍において制限ある教育活動の中で、以前は地域の方に協力していただいていた活動の多くができなかったため、敢えて評価項目から外させていただいた。以前は、地域の方のご協力（家庭科でミシンの学習・国語で読み聞かせ等）があり、大変有り難かった。児童にとっても教職員にとっても本当に残念なことである。

ただ、来年度より大里小学校運営協議会が設置されることになっており、今年度も設置推進委員会を開催してきた。地域と学校が思いを共有し、大里地区の子供たちを、力を合わせて育てていけることと期待している。

○項目12（「開かれた学校づくり」）

今年度も、授業参観が2回のみで、保護者の方に学校に来ていただくことがほとんどできなかった。そこで学校は、少しでも保護者や地域の方に学校の様子を知ってもらえるように、学校だより・学年だより、ホームページの発信など学校情報の提供を心がけてきたつもりである。児童一人一端末の整備も進み、授業の場面に積極的に使用したり、家庭に持ち帰る機会も意図的に作るようにしたりしている。保護者にとって、学校の様子がよりわかるようにするためには、学校からの情報をできるだけ瞬時に発信していく必要がある。今まで以上に意識して学校の様子や児童の様子の情報発信をすることで、「開かれた学校」を教職員全体でつくりあげていきたいと考えている。

○項目13（「PTA組織と活動」）

この項目についても評価項目から外させていただいた。情報活動部によるPTA新聞は作っていただいたものの、コロナ感染症拡大防止のため、他の活動は予定していたことができずに終わってしまった。執行部の方には、今年度の行事や来年度についての検討をするために、学校に何回も足を運んでいただき、大変有り難かった。

今年度よりPTAの専門部が教育研修部（教育振興部と研修部を合わせた部会）と情報活動部の2部会で活動を始めた。保護者の負担を軽減できるようにしながらも、学校と家庭の連携をさらに強め、充実したPTA活動が行えるよう検討を進めたい。

令和5年度に向けて 改善点、継続・強化していく点

学校評価の設問項目は、11項目(昨年度同様、コロナ禍のため教育活動において制限があり、評価しにくい2項目を除く)あるが、教職員アンケート及び保護者アンケートにおいて、肯定的評価(A:十分にできていると思う・B:おおむねできていると思う)が80%以上の高い評価を示していた。そのため、現在行われている取組の大きな方向性については、継続していくことが基本と考える。

また、ここ数年間コロナ禍において実施ができなかったことも、少しずつできるようにしていく必要がある。大勢が集まることができず実施してこなかった学校・学年としての集会、さらに避難訓練や防犯訓練等も状況を見ながら実施するようにしていく。コロナ禍ではどうしても学級単位、少人数での取組にならざるを得なかったが、少しずつ集団としての力をつけていくための取組も取り戻す必要があると考える。

教職員アンケートや保護者アンケートの結果からも、昨年度のアンケート結果に比べ全体的に評価が低下した項目が多く、十分に満足しているとはいえない評価が増えたことがわかる。以上の点を踏まえ、各項目について次の点を意識した取組、活動を行っていく。

1. 【学校経営】【学校運営】【教育課程】

- ・学校教育目標と学校経営方針を教職員が一人一人がしっかり確認し、共通理解した上で目指す学校の実現に向けた取組の充実
- ・その実現のための適材適所(各教職員の専門性、年齢・性別のバランスなど)の校務分掌
- ・令和5年度より実施の学校運営協議会制度を活用し、より地域と連携した「めざす子供像」にむけた取組の充実
- ・「チーム大里」の推進…教職員、地域からのゲストティーチャーやSCやSSW、外部機関との協働体制、一人に過度の負担がかからないような体制・環境づくり
- ・学習指導要領を基にした教科横断的な教育課程の編成と実施、カリキュラムマネジメントの重視(外国語・キャリア教育・プログラミング・道德教育・SOSの出し方教育・人権教育・ICTの活用)
- ・行事や教育活動におけるPDCAサイクルの徹底
- ・保幼小・小中教育連携の取組推進とスタートカリキュラムの着実な実施

2. 【明るく楽しい学校生活】

- ・教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てる土台となる、学級・学年等の集団づくりにむけ、積極的に学年集会等を実施
- ・自己肯定感を高める学校生活「できた」「わかった」を実感できる授業づくり、「安心できる」「認められる」「居場所がある」学級経営の充実
- ・「学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめの早期発見・早期対応
- ・様々な困難や悩み、ストレス等への対処方法を身につけるため、「SOSの出し方に関する教育」、「自殺予防教育」についての取組
- ・いじめを許さない集団づくりと不登校児童一人一人に対応するため、教職員の校内研修の実施
- ・ヤングケアラーの早期発見・状況把握と関係機関との連携と支援
- ・外部講師等活用した情報モラル教育の推進

3. 【学習指導】

- ・授業において一人一台端末等の ICT を適切に活用し、個別最適な学び・協働的学びの充実
- ・確かな学力を育む指導（やまなしスタンダード・甲府スタイルを重視した授業改善、個に応じた学習指導）の組織的な体制づくりの継続
- ・より多くの目で子供たちに関わる交換授業体制の更なる推進
- ・各教科等の特質に応じた言語活動の充実を図り、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・ICT 機器の効果的活用について教職員全体で学んでいく校内研究の充実
- ・読解力・記述力の向上
- ・家庭学習について学年の発達段階に応じた系統的な取組と家庭との連携
- ・学習ボランティアなどの学習支援、補助の人材のさらなる活用

4. 【道徳・心づくり】

- ・児童の個性や地域の実情に応じた個別の人権課題への取組を促進
- ・自尊感情・自己肯定感を育む心の教育の推進
- ・年間計画に基づいた「特別の教科 道徳」の授業の充実
- ・これまで積み重ねてきた資料の整理・活用や新しい資料の教材開発
- ・道徳教育推進教師を中心に、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進
- ・読み聞かせや朝読書の活動の継続
- ・体験的な活動やボランティア活動、あいさつ運動の推進など、規範意識の育成に向けた地域や家庭との効果的な連携
- ・小中連携における9カ年継続指導事項「あいさつ きくこと 心のしたく」に基づいた活動の実施
- ・3つの暴力（手足の暴力・心の暴力・ことばの暴力）の根絶

5. 【健康・体力づくり】

- ・運動習慣、生活習慣の定着の推進
- ・体育科の授業の充実
- ・さまざまな運動に楽しく親しませる工夫、巧緻性の育成
- ・体力づくり一校一実践運動の取組
（なわとびチャンピオンズメダル、ドッジボール大会等の外遊びの奨励）
- ・継続的な健康教育・保健教育の推進や保健室だよりなどを通しての保護者啓発や協力依頼
- ・感染症への正しい理解に基づき、具体的・実践的な指導の継続
- ・栄養教諭と連携した食教育の推進

6. 【児童会・学級活動】

- ・児童が主体的に活動する児童会活動（自治活動）の継続
- ・本校の特色である縦割り活動の継続、充実
- ・児童総会、代表委員会、学級活動での話し合い活動の充実
（自分の考えを持ち発信すること、人の意見を聞くことの大切さ）

7. 【生徒指導】【特別支援教育】

- ・ 児童の思いを受け止め、児童自らに考えさせる生徒指導の充実
- ・ 職員の共通意識に基づく組織的な指導の充実→全校で共通意識を持つ、不明確な点についてはその都度方針を共有
- ・ 学校教育目標「すべての教職員ですべての子どもたちを育てる」の教職員の共通理解
 - 一人一人の子どもと教師との信頼関係を大切にし、受容的態度・共感的理解の重視
- ・ 未然防止とともに、早期発見・早期解決、丁寧な対応
 - 当該児童への指導はもとより、事実を確認した上で保護者への対応・連絡をその日のうちにとる
- ・ 全校で共有した方がよい生徒指導・保護者対応事例について、共有する場の設定…運営委員会や打ち合わせなど
- ・ 「報告・連絡・相談・記録」の徹底 記録を正確にとることを重視
- ・ 特別支援学級の児童、各学級の特別な支援を要する児童の実態と対応について、特別支援校内委員会での共通認識をもとにした全校体制での取組
- ・ 気になる児童への指導・支援や特支学級入級検討におけるケース会議の開催
 - 情報と対応の共有、チームとしての連携
- ・ 重篤な事例について担当部局、関係機関との積極的な連携 →市子ども支援課・児童相談所など
- ・ 特別支援教育の充実（合理的配慮やユニバーサルデザイン）と保護者との共通理解
- ・ 教師の研修における特別支援教育の専門性の向上
 - 校内研修等を活用しての取組
- ・ 特別支援学級と交流級における相互の触れ合いを通じた、豊かな人間性を育むことの教育内容の充実

8. 【安全指導、防災・防犯教育】

- ・ 実践的防災訓練の実施（予告なしの避難訓練等行う→自分の身は自分で守ることの意識化）
- ・ 危機管理マニュアルの見直しと安全管理体制の整備
- ・ 安全教育に関する指導の系統化（低一交通安全指導 中一不審者対応 高一情報管理対応）
- ・ 登校後の施錠や来校者への名札着用の徹底
- ・ スクールガード隊の方々との連携
- ・ 登下校時の挨拶や歩き方の指導（保護者による旗振り当番表の確認）

9. 【環境整備・施設設備】

- ・ 毎月の安全点検の確実な実施
- ・ 備品については各担当が状況把握、適切な廃棄、購入申請
- ・ 迅速な営繕申請の対応

10. 【特色ある学校づくり】

- ・ 特色ある取組（地区探検、読み聞かせ、なわとびチャンピオンズメダル、ドッジボール大会、縦割り活動等）の内容精選
- ・ 学習指導要領を基ついた地域教材や外部講師人材の見直し
- ・ 保護者と連携した PTA 活動の充実

11. 【開かれた学校づくり】

- ・令和5年度より実施される学校運営協議会に伴い、地域の力をこれまで以上に借りながらの教育活動の展開
学校と地域が協働しながらの「めざす子供像」に向けての取り組み実施
- ・これまでの活動の継続（ゲストティーチャー、学校開放、読み聞かせ、スクールガード、保育園・幼稚園・城南中との連携）とさらなる地域の人的・物的資源の整備と活用
- ・学校開放、授業参観の充実
- ・学校日より・学年日より・HP等を活用した学校の教育活動等の情報発信の充実

12. 【服務・勤務、研修】

- ・教育公務員としての法令や服務規律の遵守の徹底（個人情報管理、交通違反・事故ゼロ、体罰禁止、人権など）
- ・「報告・連絡・相談・記録」の徹底
- ・子どもや保護者の目に映る教師の姿勢（あいさつ、言葉遣い、服装、指導態度等）の共通認識
- ※「子ども達の心や人生に大きな影響を与える」という自覚と決意、「一人一人の成長に合わせた指導が大切である」という意識を持って、勤務や研修にあたる

13. 【PTA活動】

- ・PTA会長を中心とした本会役員との連携
- ・PTA活動の内容精選と専門部の活動の充実
(学校委員会を開催し、行事の確認・実施・振り返り)

令和4年度 学校評価について（学校関係者評価結果）

○学校関係者評価検討委員会

(1) 日 時 令和5年2月24日（金） 16:30～

(2) 場 所 大里小 校長室

(3) 参加者 吉岡 吉（大里小CS設置推進委員長）

CS設置推進委員より 山宮 俊男

代表者4名 向山 茂美

（敬称略） 倉知 俊介

学校職員 校 長 長谷川 和典

教 頭 久保寺 利仁

教 頭 波羅 美智子

(4) 学校側から提示したもの

○学校評価資料

（教職員自己評価、児童アンケート集計結果、保護者アンケート集計結果、
考察、次年度の改善事項）

(5) 主な意見及び協議内容

①自己評価結果や保護者アンケート結果を踏まえて、【学校運営及び、教育活動に関すること】【児童の健全育成、家庭及び地域社会との連携に関すること】について

○ここ数年、児童のアンケートや保護者のアンケート結果が同じ傾向が見られる。学校評価の項目を見直す時期に来ていると考えられる。アンケートの項目数が多すぎるので、学校として最も力を入れる項目を数項目ほどに厳選し、その内容について1年間徹底して取り組み、その結果でアンケートをとることがよいのではないか。項目が多すぎて、子供たちも保護者も何となくの回答になってしまっているようだ。

○保護者アンケートは概ねB評価「おおむねできている」が半数以上を占めている。コロナ禍で学校の様子がよくわからないので評価しづらい面もあるだろう。学校はこれからも様々な情報発信に努め、「学校の見える化」を進めていけば、A評価「十分できている」が多くなっていくだろう。

○気持ちのよいあいさつができる児童が少なく感じる。「困ったことがあったら、先生方への相談をしているか？」の評価も昨年度より低下しており、子供たちと先生方の関係づくりはこれからも大切にしていってほしい。

- 朝の登校時にこちらから挨拶をしてもなかなか返さない児童も見られるが、保護者も挨拶ができない世の中になっているので、児童への指導も難しく大変だと考える。
- 子供の成長を考えたとき、登下校中の安全教育や道徳教育、また社会的規範についてのトータル的な人間形成指導が必要になる。これは学校だけでなく、家庭へも発信して保護者の協力を得ることが必要である。
- 両親が共働きの家庭が増えてきていて、忙しさのせいなのか、価値観の違いからなのか、子どものしつけ等の教育ができない社会になってきていると考えられる。家庭教育が甘くなっているのではないか。しつけや登下校の安全指導など、もう少し家庭での教育をしっかりとできるとよい。学校で面倒を見る量（業務量）が多過ぎる。

②令和5年度に向けたコミュニティ・スクール設置、及び「開かれた学校づくり」にむけて

- 学校ビジョンを明確にして、具体的な重点項目を挙げてそれに向かって実施できるとよい。学校から具体的にどんどころで力を貸してほしいのか説明をもらった上で、共通理解をもって地域が関わっていきたい。
- コロナ禍でなかなか学校の様子が保護者に伝わらないところがあった。学校はできるだけ様々な方法で保護者や地域に様子が伝わるようお願いしたい。
- 今まで行ってきていた大里小の特色ある活動と、社会福祉協議会を中心とした活動とのタイアップを考えながら、さらに内容を精選して活動できるとよい。（ミシン補助・読み聞かせボランティア・地区探検の補助や地域の説明・農園の作物づくり指導など）
- 学校運営協議会に向けては、地域の活動や地域の人材についてよく知っている人や保護者代表を含めた会とし、若い親世代がどのような考えを持っているのか意見交流もしながら、さらに円滑な運営ができるとよい。

※ 令和5年度より甲府市内の小中学校においては学校運営協議会制度が開始される。本年度は設置推進委員会を設け、今後さらに地域の力を借りながら「開かれた学校づくり」を目指していくことが確認された。この設置推進委員会においても、学校が手を借りたいことには積極的に応えていくので何でも言ってほしいと、温かいご意見をいただいた。いつも本校の教育活動についてご支援、ご協力をしてくださっていることに大変感謝している。来年度の「コミュニティ・スクール」が円滑に運営でき、学校と保護者・地域がより力を合わせていけるように学校としても全力を尽くしていきたい。